

## 市政研究会 市川 哲夫 議員



### 1 鈴鹿市の危機管理について

**質問1(1)** 情報面での危機管理はどのようなセキュリティがなされているのか。

**答弁1(1)** 情報システムの利用権限を最小限に限定し、指紋等による本人確認や、アクセス履歴の管理をし、端末からは外部記録媒体にデータが取り出せないようにしたり、ウイルス感染防止やデータの持ち出しを防ぐため私物の媒体の使用は禁止している。また、職員の資質向上のため、研修を実施している。

**質問1(2)** 緊急時におけるFM鈴鹿の活用について

**答弁1(2)** FM鈴鹿放送を活用した防災情報の告知

システムは市内全域に市庁舎から災害関連情報をリアルタイムに発信することで災害時における被害の防止や軽減を図る事を目的として準備を進めている。

**質問1(3)** 要援護者に対する危機管理について

**答弁1(3)** 昨年からの災害時要援護者台帳の整備をし台帳等を民生委員等に配布し、災害時に活用する。

**質問1(4)** 新型インフルエンザなどへの対応は。

**答弁1(4)** 市民への健康被害を最小限に留めるため業務継続対応マニュアルを作成し、それに基づき医薬品などを備え、万が一発生した場合には、対策本部を設置するよう取組んでいる。

**質問1(5)** 環境管理面での危機管理の対応は。

**答弁1(5)** 施設等で事故等が発生した場合、被害拡大防止を対応手順書にまとめ、緊急事態に備える。

## すずか倶楽部 原田 勝二 議員



### 1 行政110番について

### 2 職員の当て逃げ事件について

**質問1(1)** 10月16日石垣池公園内の水路に大量の魚が死んでいた。市民にとってはとても不安な事例であり、この事故はなぜ起こったのか。この種の事案に対する今後の対策について。



**答弁1(1)** 毎年野鳥の排泄物による池の水の濁りを解消する目的で池の水の入れ替えを行っており、農業用水の放流に伴い発生した。今後、石垣池の水を抜く作業については、関係者と連絡を密に行い、再発を防止する。

**質問1(2)** 市の業務について市民が緊急に問い合わせたい場合、市民はどこに電話すればよいのか。土日祝日の緊急連絡網の管理体制について。

**答弁1(2)** 現在、民間業者に業務委託をしているので、職員の日直宿直は行っていない。今後、当直簿などをよく確認し、更に、業務委託先との関係を緊密にし、緊急連絡体制の充実を図って、市民サービスの満足度を向上させる。

**質問2** 今年5月に発生したこの事件は公私の別なく悪質である。新聞記事との事実関係は。今後は再発防止のためにどのように取組むのか。

**答弁2** 新聞報道に間違いはなく、今後は、このような事件の抑止策として、他市の例を参考にし、早急に鈴鹿市職員懲戒基準を公表するよう検討する。

## すずか倶楽部 南条 雄士 議員



### 1 交通事故防止には啓発よりも強制力

**質問1(1)** 交通安全の啓発活動を精査し、効果が疑わしいものは中止して、より効果的なものに予算や人員等を配分するべきである。

**答弁1(1)** 同じことを繰り返す啓発は変えていかなければならない。関係機関・団体に懸念を伝え、より効果的な交通安全意識の高揚に取り組みたい。

**質問1(2)** より強制力のある啓発活動である警察の取締り活動に対し、場所や方法などを積極的に提案して、交通事故の未然防止に努めるべきである。

**答弁1(2)** 各方面から情報を取り入れ、警察に対し協議を申し入れて積極的な取締りを要請する。

**質問1(3)** 強制的なスピード抑制効果があるハンプ等の道路設備を積極的に導入すべきである。また、交通事故多発地点や「あんしん歩行エリア」



には、優先的に交通事故防止のための道路設備を設置するべきである。

**答弁1(3)** 地元関係者や公安委員会等と協議し、現場に応じた最適な対策を迅速かつ適正に実施する。